

10 大学公開と広報

10.1 公開講座

1 公開講座の実施状況

本学では、一般公開講座、現職教育講座、教員研修センター共催講座の3種類の公開講座を実施している。平成15年度においては、一般公開講座27、現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）33の合計60講座を実施した。

①一般公開講座については、スポーツ教室9、芸術教室5、健康・保健教室1、教養講座12の計27講座で、876人の募集に対して873人の応募があり、その内719人が各講座を受講し、615人に対して修了証書を授与した。②現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）については、33講座1,855人の募集を行い、2,051人から応募があり、その内1,850人が受講し、1,795人に対して修了証書を授与した。

2 公開講座委員会の活動

公開講座委員会では、平成12年度以降、国立大学の公開講座実施経費が大幅に削減されている状況を踏まえ、平成15年度の全体計画の立案に当たり、①同じ講座の実施は原則として年1回とする、②毎年実施している講座については、最近2回の受講者が募集人員の8割に達していない場合は、収支の均衡がとれている講座を除き、隔年実施とするか又は今後数年の間実施を見合わせる、③公開講座の講師は本学教員が担当する、④1講座当たりの実技指導員や補助員を必要最少限とする、⑤小・中学生を対象とする体験学習の講座開設を検討することなどに留意し、厳しい財政状況等に対応した。

3 自己評価と課題

本学の開学理念として、大学公開は、教育、研究と並ぶ三本柱であり、その中でも公開講座は、直接的な社会貢献として重要な位置付けを持っており、開設講座数や受講者数において他の国立大学の追随を許さない実績を挙げてきた。周辺地域及びそれ以外の地域住民から、講座の内容や開設時期等についての問い合わせが多数あり、さらに、近隣市町村教育委員会等から市町村が開催する講座への本学教員の協力要請も多い。これらのことは、本学の公開講座活動が地域社会に定着し、同時に高い評価を得てきたことを表している。

現在の一般公開講座は、スポーツ・芸術等の継続されている講座に人気があり、また、公開講座委員会の要請による現代的課題についての講座も、開催数の増加と内容の充実が図られてきた。今後は、さらに受講者の要望を踏まえて、内容的に広範で、より多様なレベルの講座を開設するため、これまで講座の開設が困難であった学群・学類においても新講座開設を実現する必要がある。また、民間のカルチャーセンター等と競合しない“筑波大学の公開講座”の特色を強く打ち出すとともに、講座内容、募集方法及び開催時期の見直し等により、存在意義や価値を高めていくことが重要である。

本学の人材と充実した施設を活用して広く社会に貢献するために、公開講座の一層の充実を図る必要がある。そのためにも、生涯学習の一翼を担う公開講座に対する認識を喚起し、公開講座担当教員に対する教育業績評価を積極的に行う方向で検討することが望まれる。

10.2 大学会館事業

大学会館は、「本学の職員及び学生の教養を深め、相互の親密なる交流の場として機能するとともに、内外の大学その他の研究機関及び地域社会等との交流に供すること等により、学問の進展及び地域文化の向上に寄与すること」を目的として設置されており、この目的を達成するため、次の業務を実施し、会館施設を学会等の利用に供した。

- (1) 大学会館主催事業（音楽関係3回、映画関係3回）を実施した。
- (2) ホール、講堂、会議室、展示場等は、大学行事（式典等）、大学主催・共催行事（国際会議等）、学会、シン

ポジウム、職員のレクリエーション（作品展示会等）及び学生の課外教育活動（発表会、作品展示会等）に利用された。

(3) 宿泊室については、本学招へい講師、国際会議及び学会等の参加者に利用された。

現時点において、開学時の大学会館の使命は十分達成できたと考えられる。一方、今後の課題としては、以下のようなものがあげられる。学園都市建設から30年経った今日、大学周辺は大幅に都市化され文化施設もほぼ整備された状況となってきたことから、今後の大学会館主催事業等の在り方を再検討していく必要がある。また、大学会館の設備備品等は開館初期に設置したものが多く、大部分が20年以上経過しており、劣化が著しいため、これらを計画的に更新・改修し、利用者の要望にも応えていく必要がある。同様に宿泊室の設備備品等についても老朽化が顕著であり、年次計画による改修整備が必要である。

10.3 広報活動

1 広報活動の現状

【基本方針】

情報化社会と呼ばれている今日、本学の実態を正しく社会に伝達するため、学内外の広報紙（誌）や報道機関を通じ、本学の教育・研究・社会貢献活動を積極的に紹介する。また、先導的な大学改革を実践している本学の経験と成果についても紹介し、我が国の大学が目指している諸改革に貢献する。

【体制】

広報・公開室は、企画調査室との関係のもと、学内外に対する広報活動の企画立案、広報刊行物に関する連絡調整及び報道機関との連絡等を行う。

【実施状況】

- (1) 「筑波大学概要」、 「同ポケット版」（年1回発行）、 「筑波大学リーフレット」（年1回発行）、 「筑波大学学報」（毎月1回発行、号外3回）、 「速報つくば」（年間23回、号外4回、特集号3回）、 「筑波大学新聞」（年8回発行）、 などの刊行物を発行した。また、「大学公式ホームページ」の管理運営、大学見学の受入れ（44件、2,220人）及び報道機関等への情報提供を通じ、学内外への広報活動を積極的に行った。
- (2) 公式ホームページでは、内容を充実しユーザーの利便性の向上を図る観点から、次の事項を実施した。
 - ① 卒業式、入学式、大学説明会及び開学30周年記念式典の様子を中継及びビデオ配信した。
 - ② ホームページ内検索システムを導入した。
 - ③ トップページコンテンツを6個に絞り、全階層を整備し直した。
 - ④ 訪問者別コンテンツを用意した。
 - ⑤ 更新情報を設置した。
 - ⑥ コンテンツの内容ごとに、見出しに使用する色を統一した。
 - ⑦ 現在の表示コンテンツがホームページの何処に属するかを表示するサイドバーを設けた。
 - ⑧ 本学学生歌のビデオに、歌に合わせた歌詞挿入を行った。
 - ⑨ 将来、動画による本学紹介を行う準備として、教育機器センターに対して筑波キャンパス及び東京キャンパスの施設等の画像収集を依頼した。
- (3) 例年どおり学園祭に参加し、「筑波大学広報コーナー」を設け、次の広報活動を積極的に展開し、3日間で延べ600人の来場者を得た。
 - ① 筑波大学紹介ビデオの上映
 - ② パソコンを利用した本学ホームページの自由閲覧
 - ③ 各学群・学類案内等各種刊行物の展示及び配布
 - ④ アドミッションセンター教官による入試相談
 - ⑤ 筑波大学新聞編集協力学生による在学生と近隣の高校生等との対談